

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成25年6月27日(2013.6.27)

【公表番号】特表2012-532592(P2012-532592A)

【公表日】平成24年12月20日(2012.12.20)

【年通号数】公開・登録公報2012-054

【出願番号】特願2012-519002(P2012-519002)

【国際特許分類】

C 1 2 N	15/09	(2006.01)
C 1 2 N	5/10	(2006.01)
A 6 1 L	27/00	(2006.01)
A 6 1 K	35/18	(2006.01)
A 6 1 K	35/14	(2006.01)
A 6 1 K	48/00	(2006.01)
A 6 1 P	43/00	(2006.01)
A 6 1 P	7/00	(2006.01)
A 6 1 P	7/04	(2006.01)
A 6 1 P	7/06	(2006.01)
A 6 1 P	9/00	(2006.01)
A 6 1 P	1/16	(2006.01)
A 6 1 P	3/06	(2006.01)
A 6 1 K	35/48	(2006.01)
A 6 1 K	35/76	(2006.01)

【F I】

C 1 2 N	15/00	A
C 1 2 N	5/00	1 0 2
A 6 1 L	27/00	V
A 6 1 K	35/18	
A 6 1 K	35/14	C
A 6 1 K	48/00	
A 6 1 P	43/00	1 0 7
A 6 1 P	7/00	
A 6 1 P	7/04	
A 6 1 P	7/06	
A 6 1 P	9/00	
A 6 1 P	1/16	
A 6 1 P	3/06	
A 6 1 K	35/48	
A 6 1 K	35/76	

【手続補正書】

【提出日】平成25年5月10日(2013.5.10)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

細胞におけるMy c ファミリー遺伝子およびK 1 f ファミリー遺伝子の発現を活性化する工程を含む、機能的に分化した体細胞の増強された自己再生を誘導するための in vitro における方法。

【請求項 2】

My c ファミリー遺伝子および / または K 1 f ファミリー遺伝子をコードするベクターを使用する、請求項 1 記載の in vitro における方法。

【請求項 3】

ベクターがウイルスベクターである、請求項 2 記載の in vitro における方法。

【請求項 4】

ウイルスベクターがレトロウイルスベクターである、請求項 3 記載の in vitro における方法。

【請求項 5】

レトロウイルスベクターがレンチウイルスベクターである、請求項 4 記載の in vitro における方法。

【請求項 6】

ウイルスベクターがアデノウイルスベクターである、請求項 3 記載の in vitro における方法。

【請求項 7】

細胞を、My c ファミリータンパク質および K 1 f ファミリータンパク質と接触させる工程を含む、機能的に分化した体細胞の増強された自己再生のための in vitro における方法。

【請求項 8】

My c ファミリー遺伝子またはタンパク質が c - My c である、請求項 1 ~ 7 のいずれか 1 項記載の in vitro における方法。

【請求項 9】

K 1 f ファミリー遺伝子またはタンパク質が K 1 f 4 である、請求項 1 ~ 7 のいずれか 1 項記載の in vitro における方法。

【請求項 10】

My c ファミリー遺伝子またはタンパク質が c - My c であり、そして K 1 f ファミリー遺伝子またはタンパク質が K 1 f 4 である、請求項 1 ~ 9 のいずれか 1 項記載の in vitro における方法。

【請求項 11】

機能的に分化した体細胞が、表皮細胞、上皮細胞、ケラチノサイト、ニューロン、グリア細胞、軟骨細胞、臍内分泌細胞、肝細胞、内皮細胞、赤血球、リンパ球、単球、マクロファージおよび樹状細胞を含む造血細胞、心筋細胞および他の筋肉細胞、骨芽細胞および破骨細胞からなる群より選択される、請求項 1 ~ 10 のいずれか 1 項記載の in vitro における方法。

【請求項 12】

細胞を、My c ファミリータンパク質および K 1 f ファミリータンパク質の活性を模倣する生物学的または化学的な化合物と接触させる工程を含む、請求項 1 または請求項 7 記載の in vitro における方法。

【請求項 13】

前記の生物学的または化学的な化合物が、c - My c および K 1 f 4 タンパク質の活性を模倣する、請求項 12 記載の in vitro における方法。

【請求項 14】

K 1 f 4 タンパク質活性を模倣する前記の化学的な化合物が、ポーロン構造クラスに属する化学的な化合物である、請求項 13 記載の in vitro における方法。

【請求項 15】

c - My c タンパク質活性を模倣する前記の生物学的または化学的な化合物が、Wnt シグナル伝達経路を活性化する化合物である、請求項 13 記載の in vitro における方法。

【請求項 16】

Wnt シグナル伝達経路を活性化する前記の化学的な化合物が、5 - チオフェンピリミジンクラスに属する化学的な化合物である、請求項15記載の in vitro における方法。

【請求項 17】

Myo c ファミリー遺伝子および Klf ファミリー遺伝子の発現を活性化する生物学的または化学的な化合物を使用する、請求項1記載の in vitro における方法。

【請求項 18】

前記の生物学的または化学的な化合物が、c - Myo c および Klf 4 の発現を活性化する、請求項17記載の in vitro における方法。

【請求項 19】

c - Myo c および Klf 4 の発現を活性化する前記の生物学的または化学的な化合物が、シグナル伝達兼転写活性化因子3 (STAT3) のアクチベーターである、請求項17記載の in vitro における方法。

【請求項 20】

機能的に分化した体細胞の増強された自己再生を誘導するための方法において使用するための、Myo c ファミリー遺伝子またはタンパク質および Klf ファミリー遺伝子またはタンパク質の組合せ。

【請求項 21】

機能的に分化した体細胞の増強された自己再生を誘導するための方法において使用するための、Myo c ファミリー遺伝子またはタンパク質および Klf ファミリー遺伝子またはタンパク質を含むキット。

【請求項 22】

機能的に分化した体細胞の増強された自己再生を誘導するための Myo c ファミリー遺伝子またはタンパク質および Klf ファミリー遺伝子またはタンパク質の in vitro における使用。

【請求項 23】

Myo c ファミリー遺伝子またはタンパク質が c - Myo c であり、そして Klf ファミリー遺伝子またはタンパク質が Klf 4 である、請求項22記載の in vitro における使用。

【請求項 24】

請求項1～19のいずれか1項記載の方法によって得ることのできる機能的に分化した体細胞の個体群。

【請求項 25】

請求項24記載の機能的に分化した体細胞の個体群および薬学的に許容される担体または賦形剤を含む、薬学的組成物。